

(鹿屋市南町伊敷)

位置と環境

遺跡は市街地から南側へ約7.5km離れた標高約45～60mの地点にある。ここは横尾岳の裾野に位置し、南側から北側へ延びる広大なシラス台地の緩斜面となり、一部には自然地形を開削し段々畑と化している所もある。この山系に源を発する川が蛇行しながら台地を駆け抜け、その周辺は浸食によって形成された沖積平野が発達し、豊かな水田が開けている。

調査の経緯

文化庁の補助を得て実施した全国遺跡分布調査事業に伴って、県教育委員会が昭和52年に分布調査を実施し、周知の遺跡として認定された。その後、この事業の一貫として遺跡の性格を把握するために、大隅地区埋蔵文化財分布調査事業に伴い県教育委員会が確認調査を実施した。

遺構と遺物

昭和52年の調査では、縄文式土器（組織痕土器・黒色研磨土器）、弥生式土器（突帯・円塗り）など多量の土器片、有肩打製石器、磨製石斧等の石器が発見された。

昭和53年の調査では遺物・遺構が発見された。これらは鍵層となる火山灰層に挟まれる形で各時代の遺物等が整然と出土している。遺物は開聞岳起源の暗紫ゴラ層の下から弥生時代中期、古墳時代の成川式土器、土師器、その下部に縄文時代後期～晩期の土器が、鬼界カルデラ起源の火山灰層の上層から縄



第1図 伊敷遺跡の位置

文時代前期と思われる土器片と集石が1基検出された。また、鬼界カルデラ起源の火山灰層の下層から縄文時代早期の石坂式土器片（第2図8・9）と集石が1基発見された。さらに、その下の桜島起源の薩摩火山灰層の下層から草創期の隆帯文土器（第2図1～7）と石斧（第2図10）が出土している。

特徴

調査当時、桜島起源の火山灰層の下から土器が確認され、発生期の土器として注目された遺跡である。

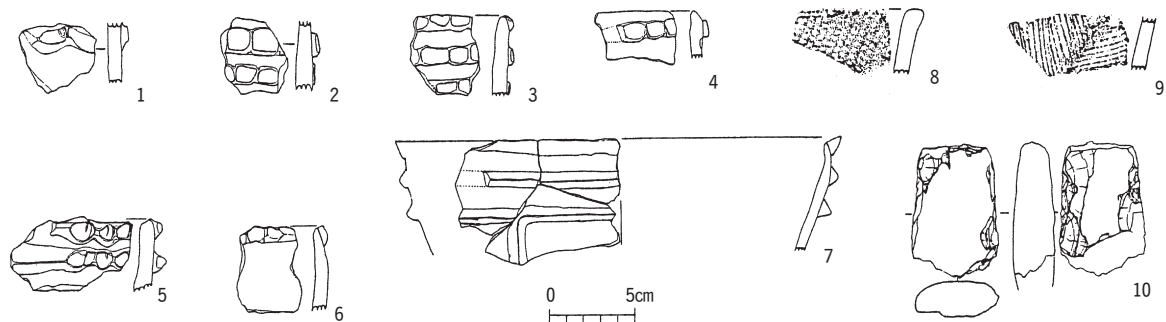
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県教育委員会1983「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書』25

(山口俊博)



第2図 出土遺物